

令和5年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立山田特別支援学校田野分校

《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	学校像	○児童生徒が安全で安心して学べる学校 ○保護者に信頼され任せられる学校 ○地域に貢献し愛される学校 ○教職員がやりがいと喜びをもてる学校	目指すべき取組姿の概要	Iカリキュラムマネジメントによる、よりよい教育課程の編成と教育活動の質の向上 ○学習指導要領の各教科等の目標・内容に基づく、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業実践と評価の一体化 ○一人一台タブレット端末を活用した、授業における活用事例の蓄積と共有によるICT教育の充実 IIキャリア教育の充実 ○規範意識、思いやり、自立心の涵養など、基本行動の確立と豊かな心の育成 ・知的障害特別支援学校における「特別の教科道德」の実践とその充実 ○文化、芸術、スポーツの振興 ○SDGsの実現に向けた学習活動の充実 IV安全安心な学校づくり ○SC.SSWと連携した心理的な安定と学びの保障 ・不登校児童生徒の早期発見見早期対応 ○多様な学びに対応するICTを活用した遠隔授業による学習保障 ○系統性のある学校安全教育の推進 V働き方改革によるワークライフバランスのとれた学校づくり ○校務支援システムの活用、業務の精選等による校務の効率化
《取組の方向性》	《6つの基本方針》 ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性にに応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ⑤就学前教育の充実 ⑥生涯学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保 《6つの基本方針に関わる横断的な取組》 ①不登校への相応的な対応 ②学校における働き方改革の推進	目指すべき取組姿	○健康で心も体もたくましい児童生徒 ○基本的な生活習慣を身に付けた児童生徒 ○社会と積極的に関わる児童生徒 ○意欲をもち粘り強く活動する児童生徒		

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組のねらい【P】	現状●と目標○【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
専門性の向上	○学習指導要領の各教科等の目標・内容に基づく、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業実践と評価の一体化 ○一人一台タブレット端末を活用した、授業における活用事例の蓄積と共有によるICT教育の充実	●教員の学習指導要領の理解が進み、全教員が公開授業を実施する等して授業力の向上に努めたが、評価改善のサイクルがうまく回せていない。 ○授業計画、実施、評価、改善のサイクルを回せるようになる。 *学校評価アンケートにおける肯定的評価が90%以上 【定期的な学部研、校内発表会開催】 【公開授業の実施、参観 全教員】 ●タブレット端末等ICT機器を活用した授業実践が増えたが、活用方法の蓄積、共有が不十分。 ○児童生徒のICT活用を促進する。 *活用方法の蓄積を増やし、情報共有できたか。【事例検討会1回】 【児童生徒の活用率100%】	○課題解決に向けた学習計画 ・年間指導計画の検討、作成 ・評価指標等の見直し ・授業評価シートの文言を整理して提案できたが、十分な活用ができていない。 ・公開授業の参観グループを作り、各教員に参加を意識することができた。 ・県外講師による校内研修の実施【7月】 ・訪問学級とのリモート授業:9月末までに5回実施 ・ICTの事例検討会【7月に1回実施】 ・クラスや学習グループで個別にICT教材や活用方法の共有はできているが、全体での共有、蓄積が十分にできていない。	C	B	B ・年間指導計画の様式を整え、次年度から作成を実施する準備ができた。 ・教員の88%が公開授業を実施できた(R6.1月末まで)。教員の96%が1回以上授業を参観でき(R5.12月末まで)、授業後は、意見交換や授業評価シートを通して授業改善に向けての取組も見られた。引き続きPDCAサイクルを回した授業づくりを進めていくことが課題である。 ・訪問学級とのリモート授業を年間17回行うことができ、修学旅行にも一緒に出かけることができた。 ・各学部で児童生徒の実態に応じてICTを活用した授業を行うことができている。GIGAスクールサポーターやICT教育推進サポーターから、教材の提供を受け、活用することもできた。ICT実践事例の蓄積は進んできたが、全体共有と有効活用が課題である。 教職員アンケート:肯定評価 ・授業改善の取組(授業評価シートを活用等):96.3% ・学習評価による学習状況や目標の見直し:96.3% ・児童生徒がICTを活用する授業の計画実施:88.9% 児童生徒アンケート:肯定評価 ・授業がわかる:84.0% ・PC等を使った授業への意欲:88.0% 保護者アンケート:肯定評価 ・学校はわかる授業づくりに取り組んでいるか:96.2% ・ICTを活用した授業づくりの取組:84.6%	B	○公開授業が実施率100%になるよう取組を進めて欲しい。 ②公開授業の早期実施に向けた取組 ③授業後のPDCAサイクルを意識した取組の継続 ④ICT実践事例の共有と有効活用の促進
キャリア教育の充実	○規範意識、思いやり、自立心の涵養など、基本行動の確立と豊かな心の育成 ・知的障害特別支援学校における「特別の教科道德」の充実と推進 ○文化、芸術、スポーツの振興 ○SDGsの実現に向けた学習活動の充実	●日常的な挨拶等は定着しているが、アンケート結果では、保護者や児童生徒の肯定的な評価が下がっている。 ○日常的な挨拶等の習慣化【学校評価アンケートにおける肯定的評価80%】 ●「特別の教科道德」の実践が進み、実践を重ねることができた。 ○特別の教科「道徳」の授業力向上 *全ての教員の実践事例の蓄積100% ●コロナ禍により校外のスポーツ行事への参加が少なかった。文化面では積極的な出品、応募できていた。 ○校外スポーツ行事への積極的参加。 ○文化的行事の開催。各種作品展への積極的な出品、応募の継続。 *学校評価アンケートにおける肯定的評価70%以上 ●SDGsの取組は、各学部において広がりがみられる。 ○SDGsを理解した社会人の育成。 *全ての学級で取り組めた。	○挨拶等の習慣化 ・児童生徒会による挨拶運動等 ○「特別の教科道德」の内容充実 ・年間計画の作成、見直し ・指導内容の充実、資料の共有化、活用 ○スポーツの行事 ・運動部員及び関係の生徒に呼びかけ、1種目以上の大会参加を目指す。 ・体育科授業でポッチャ等のスポーツを経験し、実践回数を増やす。 ・中芸高校や保護者と連携し、文化祭を開催する。 ・年間計画のもと、作品を継続して作成し、出品する。 ○SGDsの取組 ・各学部で、SDGsの授業に年間1事例以上取り組む。	B	A	A ・児童会が1月末までに9回、挨拶運動を実施できた。登下校の場面を中心に、日常的な挨拶ができていた。 ・全学部で1週間に1回程度、道徳の授業ができた。教材の蓄積は継続して増えているが、全体共有が課題である。 ・クラブ活動は、昨年度より部員を増やして実施できた。3名の生徒が、陸上競技(9月)、フライングディスク(11月)の大会に参加し、両競技会で全員が入賞することができた。 ・年間を通してポッチャの授業を行うことができた(小:交流学習で他校でもポッチャを経験、中:高12月末に生徒主催のポッチャ大会を開催)。 ・全国総合美術展(10月)に出品することができ、3名の作品が予選を通過している。その他にも、ズビッドアート展(9月)、高知県美術教育総合展(1月末、全校で毛筆部門に出品)に出品できた。 ・中芸高校と合同文化祭を開催し、作品展示や販売学習等で交流することができた。 ・全学部で、SDGsの授業に年間1事例以上取り組むことができた(小:海岸のごみ拾い、中:つる責任、つらう責任、高:服のリサイクル等)。児童生徒の実態に応じた授業内容の設定が課題の一つである。 教職員アンケート:肯定評価 ・日常的な挨拶ができていくか:96.3% ・児童生徒の規範意識等が育つよう指導しているか:92.6% ・児童生徒がスポーツに興味をもち行動するよう支援:86.2% ・児童生徒が文化・芸術に興味をもち行動するよう支援:86.2% 児童生徒アンケート:肯定評価 ・自分から進んで挨拶ができていくか:80.0% ・スポーツ参加の意欲:80.0% ・文化的な活動参加の意欲:84.0% 保護者アンケート:肯定評価 ・学校の基本行動確立への取組:96.2% ・学校は作品展出品やスポーツ大会参加等を積極的にしているか:76.9%	A	○キャリア教育の充実に向け、文化的、芸術的、スポーツ的な取組がしっかりと行われている。先生方の意識も向上している評価できる。それぞれの活動の価値づけをしていくことが大事になってくる。取組を進めていく中で価値づけをする、社会に出ていくために必要な力を付ける取組に広がっている。来年はオリンピックもあり、ポッチャは生で試合を見られるので、より意識できて良いのではないかと。 ○挨拶が非常によくできている。小学部の子どもたちが、朝、校長室に声をかけてくれる。その他の生徒も、階段で会った時などに挨拶ができていて、すばらしい。 ○スポーツ系、文科系の取組が積極的にできている。ポッチャの大会を生徒が運営できており、すばらしい。 ○中芸高校と交流できる内容があり、一緒に取り組めて良かった。生徒たちも楽しく交流することができた。中芸学の事後アンケートでは、田野分校の発表が楽しかったとの回答が多く見られた。
安全安心な学校づくり	○SC.SSWと連携した心理的な安定と学びの保障 ・不登校児童生徒の早期発見見早期対応 ○多様な学びに対応するICTを活用した遠隔授業による学習保障 ○系統性のある学校安全教育の推進	●必要に応じてSCやSSWと連携し、課題への対応ができた。 ○多様な学びの問題に対して、早期発見見早期対応を行う。 ○不登校等の児童生徒の学びの保証を行う。 *個に応じた不登校等への対応(ICTの活用を含む)ができた。 ●防災学習は根付いているが、様々なケースを想定した学習の継続が必要。 ○児童生徒が主体的に取り組む、理解を深められるような学校安全教育を実施する。 *児童生徒の理解を深めることができた。	○SC、SSWとの連携 ・SCとの面談(全児童生徒 年間1回以上) ・必要に応じて校内支援会を開催する。 ・ケースに応じてSC、SSWを交えた支援会を開催する。 ○学校安全教育の推進 ・学校安全年間計画を改善し、様々なケースに対応した防災学習、安全学習を実施する。	B	A	A ・10月末までにSCが児童生徒全員と個別面談を実施することができ、希望する生徒の面談も継続して行うことができた。また、SSWは昨年度より勤務時間が増え、保護者や生徒との面談等も多く取り、必要に応じて担任等と情報共有ができた。 ・校内で迅速な報告・相談ができており、気になる児童生徒について年間14回支援会を開くことができた。ケースによっては、地域の福祉部局の職員と連携を密に取って対応することもできた。 ・教室に入りにくい生徒に対して、各教科で遠隔授業を行ったり、活動によっては集団への参加を促したりするなど、生徒の気持ちに寄り添って柔軟に対応することができた。当該生徒が集団の中で主体的に活躍できる場面も増えてきた。 ・年間を通して防災学習を実施できた。小:非常食の試食、中:避難タワーの見学、高:消防署での放水訓練等。実施に応じた内容を設定・実施したことにより、児童生徒の理解を深める活動ができた。防災学習、交通安全教育等も必要に応じて実施することが課題である。 教職員アンケート:肯定評価 ・保護者、SC、SSW等との連携:100% ・児童生徒の実態に応じた安全教育的実施:86.2% 児童生徒アンケート:肯定評価 ・学校生活が楽しい:96.0% ・困ったとき等に、先生に相談ができていくか:72.0% ・安全教育的理解:72.0% 保護者アンケート:肯定評価 ・お子さんは楽しく学習できているか:96.2% ・学校は、安全・安心な学校づくりができているか:88.5% ・学校は、家庭への情報提供等を積極的にしているか:92.3% ・安全教育的取組:84.6%	A	○各学部が、児童生徒の実態に応じた安全教育を実施することができている。 ○防災学習、交通安全学習は、児童生徒の実態に合わない部分もあるが、改善、見直しは必要ではないかと。 ①SCによる児童生徒への面談継続実施 ②校内支援会実施に向けた取組継続 ③気になる児童生徒に迅速に対応できる校内支援体制の充実 ④不登校等の児童生徒への学びの保障に向けた取組継続 ⑤児童生徒の実態に合った防災学習、交通安全学習の検討及び実施
働き方改革	○校務支援システムの活用、業務の精選等による校務の効率化	●変形労働時間制の活用、業務内容の精選、グループウェアの積極的活用等により、業務の効率化を図った。年間を通して長時間勤務者はいなかった。 ○より一層の効率化を進め、授業準備等の時間を確保する。 *学校評価アンケートにおける肯定的評価が100%	○校務支援システムの活用 ・校務支援システムの積極的活用等を引き続き周知徹底していく。 ・校務分掌業務内容の精選、実践例の共有等、あらゆる角度から教員の多忙感の意識改革をめざす。	B	B	B ・校務支援システムでの成績入力や定着し、全教員が滞りなく作成できている。 ・各教職員が、校務支援システムの掲示板やアンケート機能を日常的に活用できており、業務連絡や意見集約などをスムーズに行うことができていく。 ・1月末までに長時間勤務者はいなかった。 教職員アンケート:肯定評価 ・校務支援システム等を活用して校務の効率化を心掛けているか:92.6%	B	○肯定評価が100%に達していないのは、アンケートの「校務支援システム等を活用して」という文に引っ張られている面もあるのではないかと。評価項目を検討することも必要ではないかと。 ○長時間勤務者がいないことは、すばらしい。 ①教職員アンケートの項目内容の検討及び必要に応じた変更 ②校務支援システム活用促進継続 ③業務の標準化の継続